

院内がん登録

がんセンター 越 智 恵

2013年分の「院内がん登録」の集計と分析を行いましたので、その結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者さんのがんについての情報を、診療科を問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者さんが多いのか、それともほかの病気でかかっているうちに発見された患者さんが多いのかなど受診までの経過の違いや、がんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

さらに、各医療機関が把握した情報を自治体単位でとりまとめる「地域がん登録」、国全体でとりまとめる「院内がん登録全国集計」も同時に行われており、毎年どのくらいの数のがんが新たに診断されているか(罹患数)、毎年どのくらいの人のがんで亡くなっているか(死亡数)、がんと診断された人がその後どのくらいの割合で生存しているか(生存率)といったがんの統計情報が集計され、国や地域のがん対策を立案、評価するために役立てられています。

なお、2013年12月に「がん登録推進法」が可決され、「がん登録等の推進に関する法律」が制定されました。現在、全国がん登録データベースの整備がすすめられており、2016年1月1日より全国の病院においてはがん登録が義務付けられる予定となっています。

登録対象 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

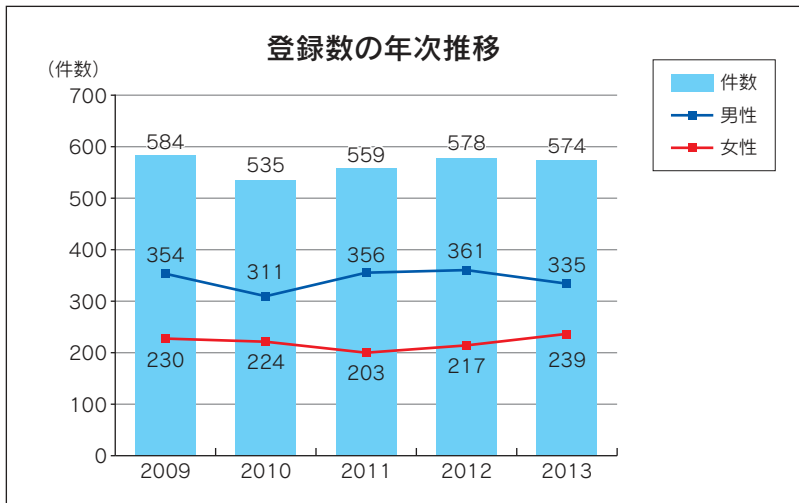
期 間 2013年(平成25年)1月～12月

登録件数 全登録数590件のうち、症例区分8その他を除く※集計対象件数：574件

※国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において症例区分8その他を除外したデータを集計対象と定義しています。

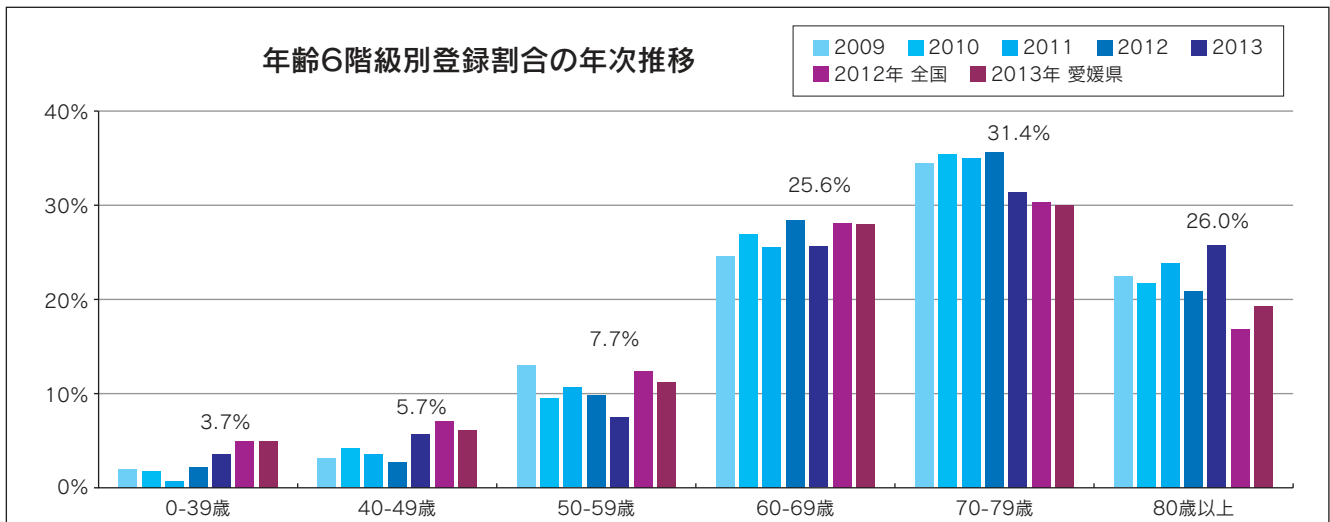
◆がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数(罹患数)とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があることから、場合によって両者に大きな差が生じることがあります。

◆個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取り扱い、保護・管理を行っています。

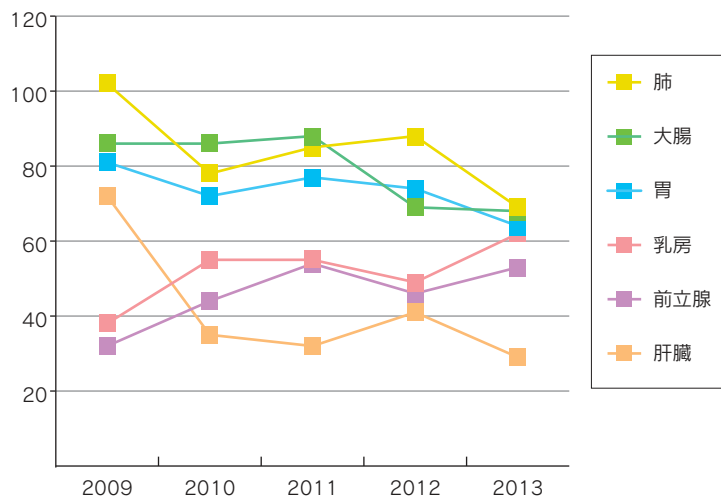


当院の年間がん登録数は、2009年から2013年の5年間では約550～600例で推移しており大きな変動は認められません。

年齢別の登録割合では、若年層が低く、高齢者が高いことには変わりはありませんが、2013年には80歳以上の比率がさらに高くなっています。



部位別登録上位の年次推移



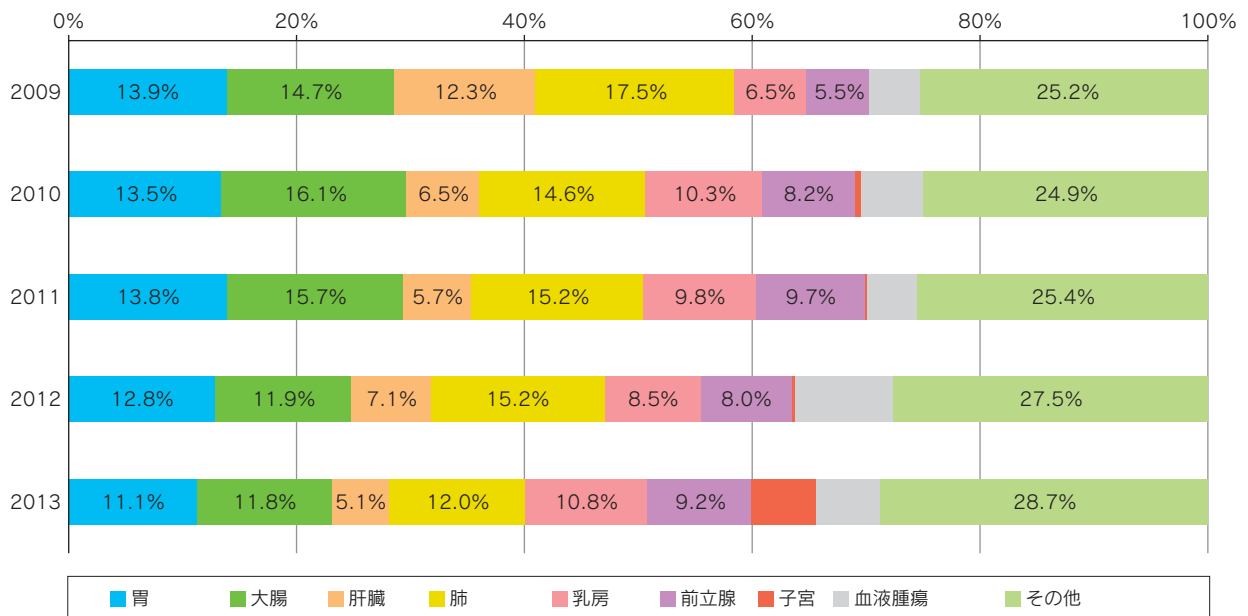
部位別がん登録件数

	2009	2010	2011	2012	2013
肺	102	78	85	88	69
大腸	86	86	88	69	68
胃	81	72	77	74	64
乳房	38	55	55	49	62
前立腺	32	44	54	46	53
肝臓	72	35	32	41	29

部位別では、我が国に多いとされている5大がん(胃・大腸・肺・肝・乳)や前立腺がんが上位を占めており、特異的な傾向は認められませんが、その登録割合は減少傾向にあります。

当地域では、済生会西条病院、十全総合病院、愛媛労災病院、四国中央病院、HITO病院の5医療施設が愛媛県指定のがん診療連携推進病院に指定されており、初診窓口となりうる施設数が多いために、単施設あたりの登録数が分散する傾向にあると推察されます。

部位別登録割合の年次推移



2次医療圏における医療状況が厳しいなか、医師、看護師をはじめとする人材確保の困難さについては当院も例に漏れず、当院単独で全てのがん診療を完結させることは不可能であり、他医療機関との連携が不可欠と考えられます。さらに、当地の事情にとどまりませんが、人口の減少と同時に人口構成の高齢化によって受診患者総数に占める悪性疾患の割合が増えるとともに、全身状態の低下や合併症の存在によって標準的な治療対象になり得ない患者数の増加が予想されます。がん医療を含む全医療分野で、均てん化するべき領域と、集約で対応すべき領域をきりわけ、実態に即した医療の枠組みを整備する必要があると考えられます。

当院としては、自施設の診療レベルの向上のみでなく、地域連携ネットワークの構築による患者さんの治療、療養の場の確保、つまり、地域全体でがん患者さんを支える体制の構築に向けたリーダーシップも重要な使命の一つであると考えています。

(副院長・がん診療部長 亀井治人)